

デザイン学科

キーワード

グラフィックデザイン、メディアアート、映像制作



准教授 / 修士（工学）

近 藤 晶
Sho Kondo

学 歴

京都工芸繊維大学 大学院 工芸科学研究科 造形工学専攻 修士課程

経 歴

アイコム株式会社職員（技術系）、フリーランスデザイナー職員（技術系）

相談・講演・共同研究に応じられるテーマ

グラフィックデザインの提案、映像作品制作

メールアドレス

sho-kondo@fukui-ut.ac.jp



主な研究と特徴

「グラフィックデザイン、モーショングラフィックス、映像デザイン」

印刷物やロゴマークなどのグラフィックデザインをベースに、モーショングラフィックスなどの映像制作、最近ではDSLRやドローンなどを使った撮影も行っています。モーショングラフィックスとはパラパラ漫画の容量で1コマずつ絵を書き動きを表現するアニメーションや3DCGを用いた映像と異なり、アイコンやロゴのような単純化した図形を用いた平面的なイラストレーションに座標と時間軸を制御して動きを表現する映像の表現手法のことを指します。2019年に制作した「秩父ケミカルPR動画」や2015年に制作した「蓄雨解説アニメーション」はAdobe IllustratorやAdobe After Effectsなどを用いたモーショングラフィックスによる映像となっています。

現在、長崎県五島市南部に位置する赤島という雨水で生活している島で、雨水の貯留・配水システム構築の様子を3年に渡り撮影、300時間近くに及ぶ撮影データをもとに、ドキュメンタリー映像作品の制作を行っています。撮影機材はドローンとしてDJI Inspire1 RAW、DJI Phantom4、撮影用カメラとしてDJI OSMO RAW、Sony α7 sll、DJI OSMO Pocketなど、スタビライザーとしてDJI RONIN M、Kylin M、マイクとしてRODE NTG 4+、SENNHEISER MKE400などを使用しています。

また、各種印刷物のデザインやロゴデザインなどのグラフィックデザインの依頼も年に数件のペースで受けています。

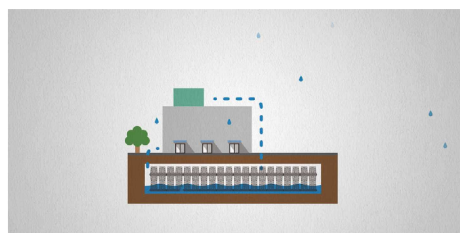


図1. 秩父ケミカル株式会社PR動画



図2. 蓄雨解説アニメーション



図3. 長崎県五島市赤島での撮影風景

今後の展望

現在赤島での活動が活発になっており、これまでに行ってきたグラフィックデザインや映像制作をベースにして、赤島で実施予定の環境教育に関する共同研究で用いるメディア・コンテンツの制作を行う予定です。また、この研究プロジェクトでは制作のみではなく、コンテンツのデザインコンセプトなどの違いにより教育効果がどのように異なるかを検証する計画となっています。

所属学会

日本デザイン学会
環境芸術学会
地域活性学会
雨水資源化システム学会

主要論文・著書

「秩父ケミカルPR動画」：秩父ケミカル株式会社、2019年
「蓄雨解説アニメーション」：日本建築学会雨水活用推進小委員会、2016年
「Green Emotion」：神戸ピエンナーレ2015、グリーンアート部門賞入賞、2015年
「Web制作技術によるインタラクティブアートの可能性」：環境芸術12号 pp. 39 - 42., 2013年